

## 競技規則補則（ローカルルール）

この競技規則補則は、「スポーツ祭東京2013デモスポフットサル本大会チャレンジリーグ」のローカルルールです。

主催者と協議の上、フットサル競技を楽しく、安全に、選手及び審判員が理解しやすくプレーできるように、また、各カテゴリーが相互に審判をすることを考慮し、フットサル競技規則を基に製作いたしました。

この競技規則に記載されていない事項はフットサル競技規則を基に主催者が決定します。

### 第1条および第2条 ピッチ、ボール

ピッチの大きさ、表面、マーキング、ボールの種類、大きさは大会規定または主催者が定める。

※ピッチの大きさは32m×18mとする。

### 第3条 競技者の数

- ・試合は、5人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。チームの競技者のうちの1人はゴールキーパーである。
- ・いずれかのチームの競技者が3人未満の場合、試合は開始されない。
- ・片方のチームのピッチ上の競技者が3人未満になった場合、試合は放棄される。
- ・交代要員は最大10名まで置くことができる。

#### ◇交代の手続き

タイムキーパー、第3審判員を配置しませんので交代は下記要領で行なう。

- ・交代は自由な交代とし、交代の回数は制限されない。
- ・交代は、ボールがインプレーまたはアウトオブプレー中に行われる。
- ・ピッチに出入りする競技者は、自分のチームの交代ゾーン（ベンチ前）から出る。ただし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまで、ピッチに入ることはできない。
- ・GKの交代は審判の許可を得て、アウトオブプレーの時に交代する。

### 第4条 競技者の用具

競技者の用具は下記事項を満たしたものとし、その他のフットサル競技規則は削除する。

#### 安全

競技者は、自分自身、または他の競技者に危険な用具を用いる、あるいはその他のものを身につけてはならない（あらゆる装身具を含む）。

#### 基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものであり、それぞれに個別のものである。

- ・袖のあるジャージ、またはシャツ - ビブスの着用を認める。
- ・ショーツ - ゴールキーパーは、長いトラウザーズを穿くことができる。
- ・ストッキング - テープまたは同様な材質のものを外部に着用する場合、着用する部分のストッキングの色と同じものでなければならない。
- ・すね当て
- ・靴 - キャンバス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質のトレーニングシューズ、または体育館用シューズのタイプのもの。 - サッカースパイクは認めない。

色 - 下記条件が満たない場合はビブスの着用を認める。

- ・両チームは、お互いに、また、主審・第2審判と区別できる色の服装を着用しなければならない。
- ・それぞれのゴールキーパーは、他の競技者、主審・第2審判と区別のつく色の服装をしなければならない。

## 第5条および第6条 主審・第2審判および副審

この大会の審判は、主審・第2審判の2名で行なわれる。副審・タイムキーパーは置かない。

### 主審・第2審判の権限

試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審と第2審判の2人の審判員によって試合時間を含めコントロールされる。

## 第7条 試合時間

- ・試合時間は10分間のランニングタイムとする。
- ・タイムアウトは無いものとする。

## 第8条 プレーの開始および再開

- ・コインをトスし、勝ったチームが試合の攻めるゴールを決める。  
他方のチームが試合開始のキックオフを行う。
- ・スタートと、得点後の再開は、キックオフで行われる。
- ・キックオフからの直接ゴールを狙ってはいけない。(得点することはできない)

反則⇒センタースポットから相手側の間接フリーキックで再開する。

※ピッチの大きさ、安全を考慮しキックオフで直接ゴールを狙うこと自体を禁止します。

※直接ゴールを狙ったか否かの判断は審判員が判断する。

## 第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

- ・ボールのすべての部分がタッチラインまたはゴールラインを越えて出たときはアウトオブプレーとなる。

## 第10条 得点の方法

- ・ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、その前にゴールにボールを入れたチームがフットサル競技規則の違反を犯していなければ、1得点となる。
- ・攻撃側チームのゴールキーパーが、自分自身のペナルティーエリア内から意図的に手や腕でボールを投げる、または打ち、他の競技者がボールにプレーする、または触れることなく、相手のゴールにボールが入った場合、得点は認められない。試合は、相手チームのゴールクリアランスで再開される。

## 第11条 オフサイド

- ・フットサルにオフサイドはない。

## 第12条 ファールと不正行為

### 1. 直接フリーキックとなるファール

反則の起きた場所からフリーキックが相手チームに与えられる。相手競技者は、ボールから5メートル以上離れなければならない。

守備側チームに対してそのペナルティーエリア内で与えられた場合、フリーキックはペナルティーエリア内のいずれの地点から行ってもよい。

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で下記の項目の反則をインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、PKが与えられる。

- ・ハンドリング・・・ボールを手で意図的に扱う。ただし、GKが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く。
- ・キッキング・・・相手競技者をける、またはけろうとする。
- ・トリッピング・・・相手競技者をつまづかせる、またはつまづかせようとする。
- ・プッシング・・・相手競技者を押す。
- ・ホールディング・・・相手競技者を抑える。
- ・ストライキング・・・相手競技者を打つ、または打とうとする。
- ・ジャンピングアット・・・相手競技者に飛びかかる。

以上の7つの反則の他に以下のプレーも反則となる。

※ スライディングタックルの禁止・・・2010年の競技規則改正でスライディングタックルは可能となったが、安全を考慮し相手競技者がボールをプレーしている、またはプレーしようとしているときに、ボールをプレーしようとして故意にすべることを禁止します。

ただし、不用意に、無謀に、または過剰な力で行わない限り、GKが自分のペナルティーエリア内で行うものを除く。

- ・ボールは、ける準備ができてから4秒以内にける。

## 2. 間接フリーキックとなるファール

反則の起きた場所からフリーキックが相手チームに与えられる。相手競技者は、ボールから5メートル以上離れなければならない。

- ・危険な方法でプレーする。
- ・意図的に相手の前進を妨げる。
- ・ボールがインプレーとなって、他の競技者に触れる前に、キッカーが再びボールに触れる。
- ・GKがボールを手から離すのを妨げる。
- ・GKが自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを直接手、または腕で受ける。
- ・GKが自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者がキックインしたボールを直接手、または腕で受ける。
- ・ゴールキーパーが手で投げた後、または足でけた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

※パントキック、ドロップキックも含まれる。

この規定はU-15以下に適用されるものですが、本大会においては全てのカテゴリーに適用する。競技規則ではドロップキックはOKとなっているが、本大会ではNGとします。

- ・ボールは、ける準備ができてから4秒以内にける。

## 3. その他

- ・**累積ファールは適用しない。**
  - ・ゴールキーパーがボールをプレーしたのち、相手競技者がプレー、または触れていないにもかかわらず、ピッチの自分自身のハーフ内で、味方競技者によって意図的にゴールキーパーに向けてプレーされたボールに再び触れるプレーについては認める。
- ※この規定は2011/2012の競技規則から適用されたものですが、審判が適用を判断するのが難しいため本大会では適用しないものとします。

### 第13条 フリーキック

累積ファール事項を除き、フットサル競技規則を準用する。

### 第14条 ペナルティーキック

キッカー以外は、ペナルティーエリア外、ペナルティーマークの後方にいなければならない。

また、ボールから5メートル以上離れなければならない。

キッカーは特定し、直接ゴールを狙わなければならない。パスをしてはならない。

## 第15条 キックイン

- ・ボール全体がタッチラインを越えて出た場合、キックインで競技を再開する。
- ・キックインは、ボールが出たライン上またはその地点から外側25cm（約ボール1個）以内にボールを完全に静止させてから蹴る。
- ・ボールがフィールドに入ったときインプレーになる。（キックインの場合ライン上にボールを置いた時点でインプレーとなります）
- ・立ち足は、ライン上、もしくはラインの外に置く。ラインを完全に踏み越えてけた場合は、同じ場所から相手ボールのキックインとなる。
- ・キックインから、直接得点は出来ない。
- ・キックインを行なう地点から相手側選手は5m離れなければならない。
- ・ボールは、ける準備ができてから4秒以内にける。

## 第16条 ゴールクリアランス

- ・ボールが攻撃側競技者に最後に触れてゴールラインから出た場合は、ペナルティエリア内からGKがボールを手で投げて、競技を再開する。
- ・ボールがペナルティエリアを直接出たときに、インプレーとなる。
- ・守備側チームのゴールキーパーは、ゴールクリアランスを行う準備ができてから4秒以内に行う。
- ・ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。  
間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。  
この規定はU-15以下に適用されるものですが、本大会においては全てのカテゴリーに適用する。

下記事項の適用はしない。

- ・ボールがインプレーになったのち、相手競技者がプレーしていない、または触れていないにもかかわらず、ゴールキーパーがピッチの自分自身のハーフ内で、味方競技者によって意図的にゴールキーパーに向けてプレーされたボールに再び触れた場合、違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

※この規定は2011/2012の競技規則から適用されたものですが、審判が適用を判断するのが難しいため本大会では適用しないものとします。

## 第17条 コーナーキック

- ・コーナーキックは、ピッチ上、または空中にかかわらず、最後に守備側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、第10条による得点とならなかったときに与えられる。
- ・相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点することができる。
- ・タッチラインとゴールラインの交差する点に静止させて行なう。
- ・キックを行う競技者は、キックの準備ができてから4秒以内に行わなければならない。

- ・コーナーキックが4秒以内に行われなかった場合、ゴールクリアランスが相手チームに与えられる。
- ・相手競技者は、ボールから5メートル以上離れる。

## ○その他

### ◇GKのプレー

- ・GKがインプレー中にボールを取った時は、手で投げるか、けることができる。
- ・ペナルティエリア内でのGKのスライディングは、ボールに行った場合はOK。
- ・GKは、ペナルティエリアの外でプレーしても良い。

----- 【以下余白】 -----

### □Memo